

# 第49回「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール

## 文部科学大臣賞 作品

### 文部科学大臣賞

3年でのひら文庫部門／読んだ本・植物が旅をするとき

## 「植物が旅をするとき」を読んで

千葉県聖徳大学附属小学校 海保壮

ぼくは植物が大好きです。家にはガジュマルや食虫植物など、色いかな植物があつて、ぼくが毎日本をやつてそだてています。この本を見た時、「植物が旅をする」つてどういうことだろうとふしぎに思つて、すぐに読んでみたくなりました。

どこまでもいどうできます。こんな風にタネたちは色もなくふうで遠くまで旅していることに気がつきました。

けれどもタネからねが生えたらもう植物は動きません。ぼくは植物が「動かない所」がちよつとさみしいなと思つていました。でも、この本を読んで、植物は動かなくてもこまらなから動かないのかもと思いはじめました。

植物は動かなくても、空気や水や光からごはんをとれるし、タネをとばしたり鳥や風の力をかりたりして、自分のなかまをどんどんふやしています。もしかしたら、植物は

タネの時に「動いている」と考えたことはなかつたので、はつとさせられました。たしかに、タンポポのわた毛はふわふわ空をとんで行くし、ホウセンカのタネは実がはじけてぴょんと遠くまでとびます。オナモミのタネなんてズボンにくつつい

「人間つてあっちこっち動かないと食ることができなくて、大へんそうだなあ。」なんて思っているかもしれない。植物は動かないけれど、色んな知えをもつていて、じつはすぐくかしこいのだと思ひました。それから、ぼくは植物がす

ぐかれてしまふと悲しくなるけれど、植物には「死んだ」という感かくがなくて、「あとのはたのんだよ。がんばつてね」

とタネにバトンをわたしているだけかもしれないと思ひました。まるでリレーのチームみたい、何年、何十年もかけて、世界を植物でいっぱいにしてるのかもしれない。にわのぎつ草も、どこから旅してきたタネが生えてきてるのだと思うと、ちよつとにくいけれど、しぶとくてたくましいな、と思ひます。

友だちに、「植物なんて、どこがおもしろいの？」

と言われたことがあります。でも、ぼくはやっぱ植物が大好きです。きれいでふしぎなだけじゃなく、タネのころからこんなにかしくて、しっかりと生きぬいてる植物たち。ぼくはこれから、色いかな植物と出会つていきたいと思ひます。